

あいコープ放射能自主測定ニュース

No. 48 2012年10月4回

生産者の取り組み —放射能対策をしています—

青木商店

原料でも製品でも不検出のものを提供します



青木社長

青木商店の青木社長は「豆腐は子どもも大人も毎日食卓で食べるもの。だからこそ僅かな汚染もあってはならない」という強い覚悟で放射能問題と向き合っています。2011年産の原料大豆選定の際は、各産地のものを取り寄せあいコープみやぎと協力して何度も精密測定を行いました。現在供給している豆腐には

精密測定の結果微量でも汚染の可能性がある地域のもの使用は避け、不検出が確認できた青森県産大豆に限定して使用しています。



毎日食べる食材だからこそ安全性に徹底的にこだわりたい

青木商店の放射能対策

- ① 原料の精密検査で不検出(< 5 Bq/kg)
=年間通じて使用する原料から抜き取り検査を行っているため一年間分の大まかな安全性を確認できる。
- ② 製品の精密検査で不検出(< 3.7~4.7 Bq/kg)
=最終製品で安全を確認し組合員に供給する。
- ③ あいコープみやぎ一次モニタリング
=不足の備えとして定期的にモニタリングを行う。
上記の3段階で安全を確認しています。



青木商店 製品放射能検査結果(2012年7月実施)

絹ごし豆腐	Cs-134 不検出 < 4.5 Bq/kg
	Cs-137 不検出 < 4.2 Bq/kg
もめん豆腐	Cs-134 不検出 < 3.7 Bq/kg
	Cs-137 不検出 < 4.7 Bq/kg